

NERIMA

2019

練馬区立美術館 ニュース

ART

MUSEUM

NEWS

練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

23



CONTENTS

- 03 — 館長あいさつ
- 04 — MUSEUM CALENDAR
- 06 — 展覧会紹介
- 12 — 教育普及事業のご案内
- 14 — 「トコトコ美術館」の紹介
- 16 — 公募展のご案内
- 17 — 貸出施設について
- 18 — 施設案内
- 19 — 交通案内

2019年から本格化する美術館リニューアル構想

昨年の4月に館長に就任して一年近くが経つ。これまで3つの美術館で館長を経験して、練馬区立美術館で4館目となる。一口に美術館と言ってもそれぞれに個性があり、運営主体や立地条件、扱っているジャンル、規模などによって個性は異なる。なぜこんなことをいうかというとならぬ練馬区立美術館も開館から30年以上が経過して、リニューアルの話が持ち上がっているからだ。当初は、単なるハード面の改修だったが、そこから夢が広がり、運営面を含めて大規模に見直していったらどうかという方向で動く気配である。このような大掛かりな話になってくると単に美術館内でできるわけではなく、前川区長のリーダーシップの下で区民の皆さんの同意を得ながら動いていくことになる。次代を担う素晴らしい美術館に向けて構想をスタッフ一同で練ってきたい。

2019年以降から当分の間は、リニューアル構想を策定しつつ、通常の美術館の展覧会や教育普及の事業もおこなっていくということになる。展覧会をご覧頂いている美術愛好家の皆さんには美術館のリニューアルについてもご注目いただきたい。

今年度の主な展覧会のラインナップをご紹介しますと、4月はルネ・ラリック展。19、20世紀のフランスを代表するガラス工芸家、金細工師、宝飾デザイナーであるラリックの素晴らしい作品を紹介する。続いて、5月、6月は、浮世絵の展覧会。公文教育研究会が所有する子どもが描かれている、あるいは子どもに関連する浮世絵をご紹介します。続いて、7月から9月中旬までは坂本繁二郎展。日本の近代洋画の重要な作家の紹介である。秋の10月11日は、エドワード・ゴッリー展。異色な絵本作家として知られるゴッリーの世界観を紹介する。12月からは近代の版画家の品川工展、そして翌2020年2月には、画家、書家、随筆家などとして幅広く活躍した津田青楓展の開催である。

今年一年も練馬区立美術館らしい展覧会や事業を開催していきたいと思う。引き続きのご愛顧をよろしく願いたします。

2019年4月
練馬区立美術館 館長 秋元雄史



MUSEUM CALENDAR

	2階 展示室 1	3階 展示室 2・3
2019 4		
5	くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展 2019年4月28日[日]～6月9日[日]	1
6		
7	ふえるコレクション、かわるコレクション(仮) 2 2019年6月14日[金]～7月4日[木]	第65回 練馬区美術家協会展 2019年6月14日[金]～6月23日[日]
8		
9	没後50年 坂本繁二郎 展 2019年7月14日[日]～9月16日[月・祝]	3
10		
11	エドワード・ゴッリーの優雅な秘密 2019年9月29日[日]～11月24日[日]	4
12		
2020 1	没後10年 品川工 展 5 工夫と研究の楽しいかたち(仮) 2019年11月30日[土]～2020年2月9日[日]	練馬区中学校生徒作品展 2020年1月11日[土]～15日[水] 練馬区小学校連合図工展 2020年1月18日[土]～23日[木] 練馬区小中学校連合書きぞめ展 2020年1月25日[土]～26日[日] 第51回練馬区民美術展 2020年2月1日[土]～2月9日[日]
2		
3		
4	生誕140年記念 津田青楓とあゆむ明治・大正・昭和 展(仮) 2020年2月21日[金]～4月12日[日]	6

くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展

会期：2019年4月28日[日] - 6月9日[日]

公文式学習法で知られる公文教育研究会は長年にわたり、「子ども浮世絵」の収集と研究を行っています。その理念はフランスの歴史学者であるフィリップ・リエスの絵画資料を用いた中世ヨーロッパにおける子ども研究に基づいています。本展ではその中から子どもの遊びをテーマにした選りすぐりの浮世絵、絵巻、屏風、絵本、玩具など約170点を展示いたします。

江戸の庶民の生活を活写した浮世絵には、母子絵と呼ばれる母子の情愛を描いたものや、子どもたちの遊びや年中行事を捉えたもの、大人たちの願いや想いを反映したものなど、歴史資料としての面ばかりでなく、今と変らぬ日常の様子や愛おしい様子が見て取れます。加えて、浮世絵版画は江戸時代の代表的印刷物であったことから、子ども向けの教育、娯楽のための本や絵画、双六や凧などのおもちゃにも用いられ、広く庶民に楽しまれていました。

この展覧会ではそうした江戸時代の子どもたちの様子や、当時の遊びを題材に、大人も子どもも楽しめる浮世絵の世界を紹介します。

観覧料：一般 1,000円 ほか



左：一林斎芳重《鍮甲組上げ》嘉永6年(1853) 大判錦絵
右上：歌川国芳《ほうづきづくしほたるがり》弘化(1844-48)頃 大判錦絵二丁掛
右下：菊川英山《子供遊七福神 大黒》文化8年(1811)頃 大判錦絵

ふえるコレクション、 かわるコレクション (仮)

会期：2019年6月14日[金] - 7月4日[木]

1985年の開館以来、練馬区立美術館では、「日本近現代美術」を中心に作品の蒐集につとめ、現在では、2600件をこえるまでに成長しました。作品購入が厳しくなった近年でも、多くの寄贈に恵まれ、その数を増やし続けています。

展覧会開催をきっかけに、あるいは、人と人のつながりや、これまでのコレクションとのつながりから。寄贈の縁は、さまざまなかたちで結ばれてきました。コレクションに新たな一点が加わることで、これまでのコレクションは新たな一面をみせ、ますますその持つ意味を深めていきます。

こうしてあつまった作品は、物理的にもその姿をかえることがあります。経年の痛みや汚れが出た作品は、長期の保存を見据え、可能なかぎり修復します。また、むきだしのまま寄贈を受けた作品は、新たに額を新調するなど展示のためにかたちを変更することもしばしばです。コレクションは、そのかたちや持つ意味も含めて、いつまでもある一点に留まるものではなく、かわりつづけるものであり、そこには当館の歩みが映し出されています。

本展では、近年、練馬区立美術館のコレクションに新たに仲間入りした作品を中心に、修復し装いを新たにした作品たちをご紹介します。

観覧料：無料



上：朝井閑右衛門《豊干禪師図》1942年 紙本着色 練馬区立美術館蔵
下：上條静光《江東のうたC(大島工場街)》1961年 紙本着色 練馬区立美術館蔵

没後50年 坂本繁二郎展

会期：2019年7月14日[日] - 9月16日[月・祝]

坂本繁二郎(明治15～昭和44年・1882～1969)は夭折の画家、青木繁(明治15～明治44年・1882～1911)と同年、同郷の福岡県久留米市に生まれた画家です。青木に触発されるように東京に出て本格的に油彩画を学び、太平洋画会や文展、東京府勸業博覧会などに出品し数々の賞を受賞し、39歳で渡欧。3年ほどの外遊からの帰国後は郷里近郊の八女市を制作の場に選び、中央とは一線を画し、制作三昧の生涯を送りました。

坂本はヨーロッパ留学までは牛を、帰国後は馬を、そして戦後は身の回りの静物、中でも能面を描き、最晩年は月をテーマとして描きました。中心となるテーマは、時代と共にゆるやかに変化していきますが、静物画は絶えず描いており、まさにライフワークとも言えるものでした。坂本の静物画のモチーフは果物、植木鉢、箱、本など平凡でありながら、幾重にも絵具が重ねられた画面は明るく、穏やかな静謐さを湛えています。「描きたいものは目の前にいくらでもある」という晩年の言葉は、坂本の画業の真髄を伝えるものでありましょう。

本展は、没後50年にあたり、16歳で描いた初期作から、盟友、青木繁の作品を交え、坂本の画業を約150点の作品・資料で展覧します。中でも本展では、生涯を通して描いた静物画に特に注目し、坂本の絵画が完熟していく過程をその人生の歩みと共に明らかにしていきます。

観覧料：一般1,000円 ほか



左：《月》1966年 無量寿院蔵(福岡県立美術館寄託)

右上：《松間馬》1938年 京都国立近代美術館蔵

右下：青木繁《朝日(絶筆)》1910年 小城高等学校同窓会黄城会蔵(佐賀県立美術館寄託)

エドワード・ゴリーの優雅な秘密

会期：2019年9月29日[日] - 11月24日[日]

アメリカの絵本作家エドワード・ゴリー(Edward Gorey / 1925～2000)の展覧会を開催します。アイロニカルで少し不気味な独特の世界観と、繊細なモノクロームの線描は、世界中の人々を魅了してきました。近年、『うろんな客』や『不幸な子供』などの絵本の翻訳が次々に発表されたことで、日本でもゴリーの人気が高まっています。

ゴリーの絵本の世界は、幻惑的な物語と繊細で優雅なイラストで構成されています。文学に傾倒したゴリーらしく、古語や造語、押韻などが散りばめられたテキストによって複雑で謎解きのようなストーリーが組み立てられ、細いペンで描かれた個性的で不思議な登場人物たちが物語の世界を演じます。このゴリーの世界観に、シュールレアリストのマックス・エルンストや映画監督のティム・バートンなど多くの芸術家や文化人が魅了され、彼の芸術はあらゆるジャンルの創作の源泉となってきました。

本展は、ゴリーの没後、エドワード・ゴリー公益信託とブランディーワイン・リバー美術館によって準備された世界巡回の原画展です。日本で初公開するもので、2016年より国内各地を巡ってきました。原画に資料や書籍などを加えた約350点から、ゴリーの世界観を紹介します。

観覧料：一般1,000円 ほか



上：《うろんな客》1957年 挿絵・原画 ペン・インク・紙 エドワード・ゴリー公益信託

下：《嗅ける鼻のどんぐり》1969年 挿絵・原画 ペン・インク・紙 エドワード・ゴリー公益信託

©2010 The Edward Gorey Charitable Trust

没後10年 品川工 展 工夫と研究の楽しいかたち(仮)

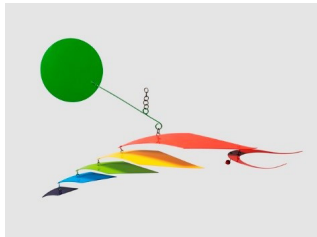
会期：2019年11月30日[土] - 2020年2月9日[日]

品川工(1908~2009)は、新潟県柏崎市生まれ、練馬区に居住したゆかりの作家です。

1928年東京府立工芸学校(現都立工芸高校)を卒業後、彫金家・宇野先眠に師事。その後兄・品川力とともに東京帝国大学近くで喫茶店ペリカン(のちのペリカン書房)を開き、そこで立原道造や織田作之助、串田孫一らと出会います。店に入りしていた帝大生らに訳してもらったモホイ・ナジの著書『材料から建築へ』に感銘を受け、紙彫刻やオブジェなどの制作を始めました。また1935年から恩地孝四郎に師事し、本格的に版画制作を開始しています。木版画を学ぶ一方、印刷会社に勤めた経験から「光の版画」やフォトグラム、鏡を使った“プリントミラー”など様々な版画表現を試みています。また実験的な版画制作と並行してユーモラスなオブジェやモビールも続けて制作し、『新しいモビール』(1971年 日貿出版社)、『たのしいペーパークラフト』(1988年 講談社)などの著書もあります。

品川は様々なジャンルからのアプローチが可能な作家であり、本人も「版画家」ではなく「造形作家」と呼ばれることを好んだといえます。没後10年の節目の年に開催する本展では、版画やオブジェなどの作品を展示するだけでなくその素材を探り解体・解説することで、品川の原点である、「素材」との出会いから出発する造形表現の軌跡を辿ります。親しみやすい造形ながら鋭い実験精神に裏打ちされた品川の作品をご紹介します。

観覧料：無料 ※会場は2階展示室のみ



左：《サソリ》1968年 メラミン塗装・アルミ板、針金ほか 練馬区立美術館蔵
右：《鬼ごっこ》1955年 木版・紙 練馬区立美術館蔵

生誕140年記念 津田青楓とあゆむ明治・大正・昭和 展(仮)

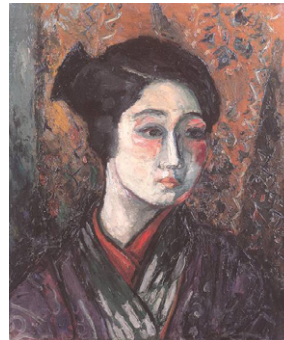
会期：2020年2月21日[金] - 4月12日[日]

1880年に京都市上京区に生まれた津田青楓(本名・亀治郎/1880~1978)は、1894年に図案制作を学ぶために京都市立染織学校に入学、同時期に歴史画家谷口香嶺に師事し、本式の日本画を学び始めました。その後、関西美術院で浅井忠に油絵を学び、1907年に農商務省海外実業実習生として渡仏、同行した安井曾太郎とともにアカデミー・ジュリアンで修行します。帰国後の1914年に二科会創立に参加。後に洋画を離れ、戦後は文人画風ののびやかで滋味豊かな作品世界を展開しています。

津田は、文豪夏目漱石に愛され、彼に絵を教えた画家であり、文展に抗して有島生馬らと在野の美術団体二科を創設した一人でもあります。また、写生にもとづく創造的な図案の試みや、随筆や画論など多岐にわたる文筆活動、それに私淑する良寛和尚の研究と、その成果ともいえる書作品など、幅広く旺盛な制作活動で知られています。

初の大規模な回顧展となる本展では、交友のあった夏目漱石と社会学者河上肇、それに良寛と、津田がもっとも影響を受けた3人を軸にしなが、津田の作品や資料を通して、彼の生きた明治・大正・昭和という激動の三代を振り返ります。

観覧料：一般 1,000円 ほか
特別協力：笛吹市青楓美術館



左：《S子像》1928年 油彩・キャンバス 笛吹市青楓美術館蔵
右：《黒牡丹と真名鶴図》1919年 絹本着彩 笛吹市青楓美術館蔵
©Rieko Takahashi

教育普及事業のご案内

美術館の核となる、展覧会及び所蔵品への理解を深め楽しむために、様々な入口をご用意しています。子どもから大人の方までふるってご参加ください。

※ギャラリートーク、ロビーでのコンサート・パフォーマンス以外は、ほとんどが事前申込制です。

※各事業の詳細は、なりま区報(30名以上の募集事業)および美術館ホームページに開催1ヶ月前程前から掲載します。また図書館などの区内施設にてチラシを配布しています。

展覧会を様々な角度から楽しむ /

展覧会関連事業

ギャラリートーク、実技講座・ワークショップ、講演会、コンサート・パフォーマンス、鑑賞プログラム「トコトコ美術館」(3～6歳の未就学児+保護者対象 年3回)



ギャラリートーク

担当学芸員やゲストが展示室を回りながら展覧会についてお話しします。

コンサート

ロビーには1877年製のスタインウェイ社のピアノがあり、展覧会に合わせたコンサートが開かれます。



実技講座

展覧会に合わせて絵画や版画、彫刻、工芸など本格的な作品作りに取り組みます。



「トコトコ美術館」

テーマに合わせた作品鑑賞と絵本の読み聞かせ、工作をします。初めての美術館!



人が集う場作り /

美術館を楽しむワークショップ

四季のみじたく(小学4年生以上対象、年4回)
館内探検(5歳～小学2年生対象、年1回8月開催)

「美術館をつかまえる!? 館内探検とフロッタージュ」

毎年夏休みにバックヤードの探検を行っています。フロッタージュしながら館内を巡り、採取した用紙を綴じて美術館標本として持ち帰ります。



美術館の施設及び展覧会を学校の学習に /

スクールプログラム

① 団体鑑賞 ② 施設見学 ③ 職場体験 ④ 出張プログラム

内容に関してはその都度ご相談させていただいています。

2018年度は24校48回実施しました。

※展示替え期間及び当館主催のイベント開催日にはお断りする場合があります。



美術館サポーターの活動

現在37名がサポーターとして活動しています。

主な活動は、美術関連記事の新聞切抜き、イベントの会場受付、サポータートーク、練馬ゆかりの作家調べなどです。

トコトコ美術館

「トコトコ美術館」は、未就学児（時々小学校低学年）と保護者の方を対象とした鑑賞プログラムです。「小さい子どもと一緒に美術館に行きにくい」という声を多く耳にします。

〈走らない〉〈静かにする〉〈作品にさわらない〉、美術館の約束は子ども達の行動とは正反対と思われるかもしれませんが、この行動を開放し休館中に子ども達を迎えるという素敵な企画をしている美術館もありますが、当館では小学生から中学生、高校生、大人になっても美術館を楽しめるためのステップとして、美術館のルールを伝え、いつもの美術館の雰囲気に親しみ、おまけもある！「はじめての美術館」をご用意しています。

ここではこの「トコトコ美術館」がどのようなものか、順を追ってご紹介します。

① 受付

ロビーにて受付。名前を確認し、好きな色の色鉛筆を選んでもらい名札に名前を書きます。担当はここで子ども達の様子や好きな色などを観察しておきます。



② あいさつと美術館のルール確認

毎回展覧会の内容に合わせたテーマを設けています。虫を多く描いた中村忠二の展覧会では、「むし」をテーマにして子どもたちに知っている虫を聞くことから始めました。テーマは「ぼうし」や「くだもの」などの身近なモチーフや、「しかく」「あか」など形や色に注目するもの、「きんぞく」「はなが」など素材や技法を取り上げるものの3パターンがあります。最後に展示室での3つの約束を伝え展示室へ向かいます。



③ 展示室へ

約束の確認と展示室内で見つけて欲しいものを伝えます。このときは「絵の中から虫をさがせ」でした。



④ 各自で鑑賞

「虫」に注目しながら展示室を各自一巡します。



⑤ 展示作品の確認

一巡したところで全員集まり、一人ずつ見つけた虫の絵のところに案内してもらいます。時々担当が簡単な作品の解説をささめます。



⑥ 絵本を読む

虫探しの興奮をトーンダウンさせ、また展示作品を身近な存在に落とし込むため、絵本を読みます。



⑦ 創作室へ

絵本であおむしが蝶になったので、みんなも蝶になりましょう、ということで工作の出来る部屋へ移動します。この回は、太くやわらかい針金とさまざまな紐状の素材で、子どもが背負える羽を作りました。工作の内容によっては、子どもと保護者それぞれが1作品ずつ取り組むものもあります。



⑧ 再び展示室へ

作品ができれば、自分自身につけてもう一度展示室へ。最初に見つけた虫たちを確認しながらプログラムを振り返ります。作品によって床においてみたり、壁面に立てかけて展示作品と比べたりして楽しめます。



⑨ 終了

子どもたちが工作をしている間に、担当がそれぞれの子に似合いそうな色の毛糸で紐を作っておき、最後に名前を書いた参加証としてメダルをかけるように渡します。



公募展のご案内

日頃の創作活動の成果を発表する場として、毎年1回「練馬区民美術展」を開催しています。11月に出品者を募集しますので、出品をご希望の方は、11月1日号(予定)のねりま区報に掲載の応募方法または区民美術展応募チラシ、当館ホームページをご覧ください。

第51回 練馬区民美術展

会期

2020年2月1日(土)～9日(日)

応募資格

区内在住(または在勤・在学)の15歳以上の方(中学生は不可)

募集作品について(予定)

洋画(油彩、水彩、アクリル、パステル、版画など)
日本画(水墨など)

彫刻・工芸(漆芸、陶芸、染織、和紙絵、押し花絵、切り絵など)



展示風景(第50回練馬区民美術展)

貸出施設について

皆さんに美術に対する理解を深め、発展させ、さらに主体的にご参加いただくため、館内の施設を貸出しています。ご利用になる施設によって、申込方法が異なります。詳しくはお問い合わせください。

区民ギャラリー

美術作品の展示発表を目的とする個人、サークル等に貸出します。

1日を単位として、連続6日まで利用できます。(展示・撤去作業の時間を含む)

※2019年度の企画展示室の貸出期間は、11月30日(土)～12月28日(土)、および1月4日(土)～1月9日(木)の期間です。(2019年4月1日現在)

名称	面積	使用料	貸出条件
2階 一般展示室	85.5㎡	4,000円/日	
3階 企画展示室Ⅰ 企画展示室Ⅱ	200㎡ 208㎡	16,000円/日 (2室分)	企画展示室Ⅰ・Ⅱは、 両室利用が原則

創作室

美術作品の創作・研究・学習活動を目的とする個人、サークル等に貸出します。

午前・午後を単位として、1ヶ月に4枠まで利用できます。

名称	面積	定員	利用時間	使用料	貸出備品・器具など
2階 創作室	111㎡	30名	午前 10:00-13:00	1,200円	作業台、スツール(椅子)、 イーゼル、ホワイトボード、 プレス機、石膏モデル 等
			午後 14:00-18:00	1,600円	

※練馬区長が認める生涯学習団体は、使用料減免制度に基づき50%減額します。



一般展示室



創作室

施設案内

開館時間 10:00～18:00（入館は17:30まで）

休館日 毎週月曜日（ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日休館）、年末年始（12月29日～1月3日）、展示替えなどによる準備期間中

観覧料 展覧会により異なります。詳しくは各展覧会ページをご覧ください。
なお、いずれの展覧会も、中学生以下および75歳以上の方は無料でご覧いただけます。（年齢等の確認できるものを提示した場合に限る）

図録の販売 展覧会に合わせて作成した図録は、2階「図録・グッズコーナー」で販売しております。ご来館の難しい方は、通信販売の取扱いもございますので、お問い合わせください。

バリアフリー

- 当館の展示室は2階・3階にあります。館内にはエレベーターを設置しております。
- 誰でもトイレを設置しております。
- 障害をお持ちの方は、当館のご利用に限り駐車場をお貸しできます。（事前予約制）
- 館内で利用いただける、車椅子・ベビーカーを用意しております。（数に限りがあります）
- 授乳室を設置しております。

喫茶コーナー 2階ロビーにて土日祝日のみ軽食とドリンクを販売します。
※詳しくはお問合せください。

練馬区文化振興協会友の会 会員募集！

年会費：2,500円(税込)
期間：入会月から1年間

練馬区文化振興協会が管理運営している施設の公演や展覧会などがお得に楽しめます。

特典1 情報誌を毎月郵送

入会方法

特典2 チケット10%オフ
【対象施設】練馬文化センター
大泉学園ゆめりあホール

窓口 練馬文化センター、大泉学園ゆめりあホール、石神井公園ふるさと文化館、練馬区立美術館へ。

特典3 チケット優先予約
【対象施設】練馬文化センター

郵便振込 郵便局にある振込用紙に①友の会入会希望 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤生年月日 ⑥性別を記入の上、指定の口座に2,500円をお振込みください。

特典4 展覧会にご招待
（同伴者1名まで可）
【対象施設】石神井公園ふるさと文化館
練馬区立美術館

〈払込口座記号番号〉00160-3-514280

〈加入者名〉株式会社 五十嵐商会 練馬文化センター係

特典5 会員限定イベント開催
【対象施設】石神井公園ふるさと文化館
練馬区立美術館

インターネット 協会ホームページ (<https://www.neribun.or.jp/>) の「友の会」バナーから手続きができます。2,500円をクレジットカード決済でお支払いください。

問合せ：公益財団法人練馬区文化振興協会 Tel:03-3993-3311

交通案内

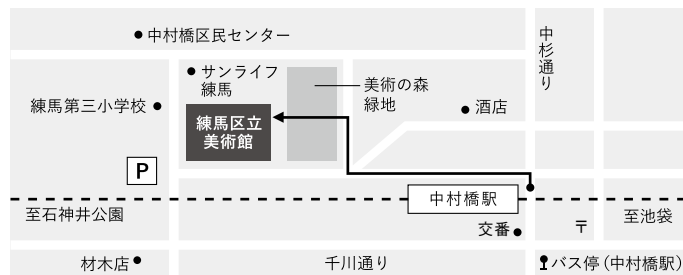
鉄道 西武池袋線「中村橋」駅下車 徒歩3分

バス 関東バス「中村橋駅」停留所下車 徒歩5分

阿佐ヶ谷駅北口 — 中村橋駅《阿01》系統終点

荻窪駅北口 — 中村橋駅《荻06》系統終点

荻窪駅北口 — 練馬駅《荻07》系統「中村橋駅」下車



※駐車場はございません。美術館周辺のコインパーキング(有料)をご利用ください。

※障害者用の駐車場については、直接お問い合わせください。

隣接する施設

貫井図書館（1階）

練馬区立美術館で開催された展覧会図録はもちろんのこと、これまでに行われた日本の近現代美術の展覧会図録や関連書籍など、美術に関連する書籍を多数取り揃えています。

美術の森緑地

美術館の前庭にあたる「練馬区立美術の森緑地」には、幻想美術動物園をコンセプトに、カラフルな動物を中心とした20種類32体の彫刻が設置されています。



練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

〒176-0021 東京都練馬区貫井1-36-16 TEL: 03-3577-1821

<https://www.neribun.or.jp/museum/>

（公益財団法人練馬区文化振興協会が練馬区立美術館の管理運営を行っています）

練馬区立美術館ニュース 第23号

発行：練馬区立美術館 発行年月日：2019年(平成31)4月1日

印刷：山田写真製版所 デザイン：星野哲也

